

菊畑茂久馬:「絵画」の世界

KIKUHATA Mokuma: The World of “Painting”

会期 2020年9月1日|火|-10月25日|日|

会場 近現代美術室B



菊畑茂久馬《天動説 五》1983年

福岡を拠点に活動した画家、菊畑茂久馬（1935-2020）。当館では、コレクション展示において、彼の代表作の1つである《ルーレットNo.1》（1964年）を展示することが多かったのですが、多彩な作品を制作してきた彼の紹介としては不十分でした。そこで本展では、1980年代以降に描かれた《天動説》、《春風》など大作の絵画を特集し、彼の「絵画」の本質をお見せする予定でした。しかし本年5月21日に菊畑は惜しくも85歳で逝去。没後初の展覧会となった本展では、大作の絵画を中心にしつつ、1960年代の作品や、作品以外の資料も展示し、回顧的な要素を加えました。福岡市郊外に住み続けながら、独特の存在感を示し続けた菊畑の仕事を、所蔵作品と資料によって振り返ります。

福岡市美術館
FUKUOKA
ART
MUSEUM〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表)
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

放映。菊畑がシナリオと構成を担当（番組は芸術祭ドキュメンタリー部門優秀賞、テレビ大賞優秀賞を受賞）。12月、「1960年代—現代美術の転換期」（東京国立近代美術館他）に出品。
『戦後美術の原質』（葦書房）を出版。
10月、19年ぶりの本格個展「菊畑茂久馬展」（東京画廊）。200号サイズの《天動説》シリーズ8点を発表。10月、「1960年代—多様化への出発—」（東京都美術館）にて《奴隷系図（貨幣）》を再制作。
11月、「現代美術の展望—'85 FUKUOKA 変貌するイマジネーション」（福岡県立美術館）にて、1983年の《天動説》8点にさらに8点を加えた全16点を初めて発表。12月、「再構成—日本の前衛芸術1945—1965」（オックスフォード近代美術館、イギリス）に出品。
7月、「反芸術綺談」（海鳥社、福岡市）を出版。11月、個展「菊畑茂久馬展 月光」（東京画廊）開催。12月、「前衛芸術の日本1910—1970」（ボンビッドゥ・センター、フランス・パリ）に出品。
9月、「九州派展—反芸術プロジェクト」（福岡市美術館）に出品。美術館による九州派の初回顧展。11月、「菊畑茂久馬展」（北九州市立美術館）。自身の初の美術館での個展。改作後の《天動説》16点他、新作《月宮》も展示。
4月、「絶筆—いのちの炎」（葦書房）出版。11月、第14回福岡市文化賞受賞。
『菊畑茂久馬著作集』（海鳥社）全4巻刊行開始。
『SCREAM AGAINST THE SKY: Japanese Avant-Garde after 1945』（グッゲンハイム美術館ソーホー、米国ニューヨーク）に出品。
第4回福岡県文化賞（創造部門）受賞。
第56回西日本文化賞受賞。
個展「菊畑茂久馬：1983-1998 天へ、海へ」（徳島県立近代美術館）。1983年以後の絵画作品に注目した個展。
『絵かきが語る近代美術』（弦書房、福岡市）出版。
第3回円空賞受賞。
個展「菊畑茂久馬と<物>語るオブジェ」（福岡県立美術館）。オブジェに注目した個展。
11月、「文化資源としての<炭鉱>」（目黒区美術館、東京）に、美学校で制作した山本作兵衛模写壁画を出品。本展企画委員の1人となる。11月、個展「菊畑茂久馬—ドローイング」（長崎県美術館）。絵画制作の過程で描かれた多数のドローイングに注目した個展。
7月、個展「菊畑茂久馬回顧展 戦後／絵画」（福岡市美術館・長崎県美術館 同時開催）。九州派時代から最新作《春風》までを、2つの美術館を使って展示した、最大規模の回顧展。本展の功績が認められ、第53回毎日芸術賞受賞（受賞年月日は2012年1月1日）。
夏休み子ども美術館2012「子どもギャラリー『そら・うみ・かぜ—菊畑茂久馬の絵—』」（福岡市美術館）開催。所蔵品展。子どもワークショップ特別講師として2日間にわたり小中学生の絵画制作を指導。
個展「菊畑茂久馬展「春の唄」」（カイカイキキギャラリー、東京）。アーティスト村上隆の企画。新作《春の唄》4点と関連作を出品。*これ以降、新作の制作はなく、《春の唄》は事実上の絶筆となった。
1月、「村上隆のスーパーフラットコレクション」（横浜美術館）に、村上がコレクションした《春風 三》を出品。9月、「釜山ビエンナーレ2016」日本側キュレーターの1人である榎木野衣の依頼で、《奴隷系図（3本の丸太による）》を再制作し同展に出品。*最後の作品制作。
『自由の場所』（京都精華大学ギャラリーフーロール）に《舟歌 九》他を出品。*アトリエから作品を直接貸し出すかたちでの、最後の企画展出品。
4月、「モダンアート再訪」（埼玉県立近代美術館）の関連事業として、同館で講演会。*最後の講演会。5月21日、肺炎のため福岡市で死去。85歳。

1982
1983
1985
1986
1988
1989
1993
1994
1996
1997
1998
2003
2004
2007
2009
2011
2012
2015
2016
2017
2018
2020

1944 戦火の中、福岡市の母の元に移る。以後、生涯福岡市在住。
1950 カツ、癌のため死去。茂久馬、天涯孤独となる。福岡市立警固中学校卒業。福岡県立中央高等学校に進学。会社社長に引き取られたあと、同級生でのちに俳優となる米倉斉加年の家に引き取られる。家業（燃料店）を手伝いながら通学。
1953 同校卒業。米倉の父親の紹介で、葦重燃料工業株式会社に入社。
1954 岩田屋百貨店（福岡市）の楽焼コーナーで絵画に似顔絵などを描く仕事を得る。
1956 「第24回独立美術協会展」（東京都美術館）に《二人》が入選。のちの「九州派」の中核メンバーとなる桜井孝身、オチオサムらが開いた街頭展「バルソナ展」を見る。彼らとの交友が始まる。
1957 8月、「九州派（グループQ）」の旗揚げ展である「グループQ18人展」出品（岩田屋ホール、福岡市）。11月、「グループQ・詩料 アンフォルメル野外展」（福岡県庁西側大通り壁面）。以後、九州派主催の展覧会に出品（1961年まで）。
1958 初個展「菊畑茂久馬展」（岩田屋美術画廊、福岡市）を開催。11月、中学時代からの同級生、石井温子と結婚。福岡市郊外の大平寺に自宅新築。
1959 2月、「菊畑茂久馬・寺田健一郎二人展」（銀座画廊、東京）。8月、「第3回九州派グループ展」（同会場）。8-9月頃？九州派内部で公募展出品の是非をめぐる紛争が起こり、二科展への出品を続ける寺田を菊畑が詰問（寺田は九州派を脱退）。12月、オチオサム、山内重太郎、菊畑の3人で九州派を脱退し「洞窟派」結成。
1960 3月、「第12回読売アンデパンダン展」（東京都美術館）に《葬送曲 No.2》他を出品。5月、「洞窟派展」（銀座画廊）。この後菊畑は九州派に復帰。
1961 4月、「現代美術の実験」（国立近代美術館、東京）に《奴隷系図（貨幣）》を出品、作品の周囲に5円玉を撒く。9月、「九州派展」（銀座画廊）に《奴隷系図（三本の丸太による）》を出品。10月、長男・拓馬誕生。
1962 個展「菊畑茂久馬展」（南画廊、東京）に《奴隷系図—円鏡による》多数出品。画廊企画による東京での初個展。これ以降、菊畑は九州派を離脱。
1964 1月、「ヤング・セブン」（南画廊）、3月、個展「菊畑茂久馬展」（同会場）に《ルーレット》シリーズ出品。春頃、筑豊の炭坑画家・山本作兵衛を知る。
1965 「The New Japanese Painting and Sculpture」（新しい日本の絵画と彫刻）（サンフランシスコ美術館ほか全米7会場）に《ルーレット》3点を出品。神奈川県川電業会館ビル（横浜市）の外壁陶板壁画を制作。
1967 「九州・現代美術の動向」（福岡県文化会館）を、谷口治達（西日本新聞記者）、深野治（フクニチ新聞記者）と企画開催。自らも出品。
1969 2月、「第3回九州・現代美術の動向展〈別の世界展〉」（福岡県文化会館）にて事務局長・局員を務める。出品者全員による市内仮装パレード、テレビへの出演など行う。8月、福岡市中央児童会館玄関外壁に陶板壁画を制作（現存せず）。
1970 美学校（東京）講師となる。翌年4月まで、学生と山本作兵衛「筑豊炭坑画」の模写壁画を制作。講師は2001年まで継続。
1974 個展「菊畑茂久馬版画展」（文芸春秋画廊、東京）。版画集《天動説 其の一》を出品。
1976 オンワード樫山福岡支店ビル玄関ホールに陶板壁画《THE SKY》を制作（現存）。
1978 『フジタよ眠れ—絵描きと戦争』（葦書房、福岡市）、『天皇の美術』（フィルムアート社、東京）を出版。
1979 「菊畑茂久馬版画展〈オブジェデッサン〉」（天神アートサロン、福岡市）にて《オブジェデッサン》を出品。
1980 1月、雑誌『機関』（11号）を復刊。以後、2001年までに17号まで発刊。
1981 2月、菊畑が編集した山本作兵衛炭坑画集『王国と闇』（葦書房）出版。9月、木村栄文がディレクターを務めたテレビ番組「絵描きと戦争」（RKB毎日放送）

*本展開催にあたり、菊畑家の皆様にご多大なるご協力をいただきました。記して感謝の意を表します。

